

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 2 月 16 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/16 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.8 m <sup>3</sup> /h	24.6	106.5 kPaabs	0.01 vol%
		給水系：約 4.3 m <sup>3</sup> /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 10.0 m <sup>3</sup> /h	9.0 *	113 kPaabs	0.07 vol%
		給水系：約 7.6 m <sup>3</sup> /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 6.0 m <sup>3</sup> /h	48.7	101.6 kPaabs	
		給水系：約 2.9 m <sup>3</sup> /h			

\* 温度計の故障と判断。

[2号機]・2/2以降、原子炉压力容器底部の温度上昇の傾向が大きくなった2号機について、原子炉への注水量を増加し、温度の傾向を監視。2/13 14:02～14:54 2号機原子炉压力容器底部温度を監視している計器の調査を実施。調査の結果、直流抵抗値が通常時と比較して高いことから、断線の可能性が考えられ、当該計器は故障しているものと考えられる。なお、調査終了後の温度は約 342.2 (参考値)。その後、当該計器の健全性について最終的に評価した結果、当該計器は故障していたものと判断。

・2/15 原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施。分析の結果、当該システム入口でキセノン 135 が検出限界値 ( $1.1 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ ) 未満で、再臨界判定基準である  $1 \text{Bq/cm}^3$  以下を満足しており、再臨界していないことを確認。

[4号機][5号機][6号機]・特に変化なし

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (2/16 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中*	24.5
2号機	循環冷却システム	運転中	13.4
3号機	循環冷却システム	運転中	18.4
4号機	循環冷却システム	運転中	26

\* システム二次系エアフィンクーラー：停止中

[2号機]・1/19 11:50～ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

[3号機]・1/14 15:18～ 使用済燃料プールの放射性物質除去のため、放射性物質除去装置の運転を開始。

### < 3. トレンチ立坑・タービン建屋地下のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容処理 建屋 ( 高温焼却炉建屋 ) ]	2/10 14:43 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [ プロセス主建屋 ]	2/12 9:57 ~ 2/16 9:50 移送実施

### < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > ( 2/16 7:00 時点 )

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 ( サリー )	除染装置	淡水化装置 ( 逆浸透膜 )	淡水化装置 ( 蒸発濃縮 )
運転状況	運転中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

\* フィルタの洗浄を適宜実施。

・ H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

### < 5. その他 >

- ・ H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5, 6号機滞留水浄化の水を利用し、散水  
を継続実施中。
- ・ 1/11 ~ 集中廃棄物処理施設のプロセス主建屋と雑固体廃棄物減容処理建屋 ( 高温焼却炉建屋 ) 間のトレン  
チにおける放射性物質を含む水溜まりの発見 ( H23/12/18 ) を受け、発電所構内のその他のトレン  
チ等の点検を開始。  
日々の点検結果については別途参考配布資料を参照
- ・ 2/14 ~ 6号機補機冷却海水系ポンプのストレーナ切替弁の点検作業を行うため、2/14 10:02 使用済燃料プー  
ル冷却系 ( B ) による使用済燃料プールの冷却を停止し、同日 10:06 補機冷却海水系 ( A ) ポンプを停止  
( 停止時の使用済燃料プール水温度: 約 23 )。作業期間中は使用済燃料プール冷却系が停止してい  
るため、残留熱除去系による原子炉と使用済燃料プールの交互冷却を実施 ( 2/17 まで実施予定 )。なお、  
作業期間中の水温は、原子炉水が最大 37、使用済燃料プール水が最大 31 に上昇するものと評価  
しているが、温度上昇の観点からは問題無し。
- ・ 2/15 20:30 頃 3号機周辺および固体廃棄物貯蔵庫1、2号棟周辺でガレキ収集・運搬に関連する作業に従事していた協力企業  
作業員1名がヴィレッジにおいて身体の汚染検査をしたところ、顔面に放射性物質の付着を確認。その後、顔面  
の除染を行った後、再度身体の汚染検査を行った結果、バックグラウンドと同等であり、汚染がないことを確認。  
また、内部取り込みの有無を確認するため、ホールボディカウンタによる測定を実施したところ、放射性物質の内  
部取り込み無しと評価 ( 2mSv 未満 )。なお、当該作業員と同エリアで同様の作業を行っていた他の作業員に放射  
性物質の付着がなかったこと、および装備の装着状況に不備が無かったことから、装備の着脱時に放射性物質  
が付着したものと推定。
- ・ 2/16 10:02 ~ 14:06 所内共通ディーゼル発電機 ( A ) の復旧工事に伴い、共用プールの冷却を停止 ( 停止時プール水温  
度: 18.2、再開時プール水温度: 19.0 )。

以上